

既存化学物質審査シート(人健康影響・生態影響)

(平成19年7月27日開催)

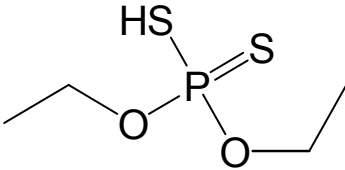
官報公示 整理番号	CAS No.	物質名称	判定結果		頁
			人健康影響	生態影響	
2-319	115-70-8	2-アミノ-2-エチル-1,3-プロパンジオール	二監相当でない	三監相当でない	1
2-1896	298-06-6	O,O'-ジエチルジチオリン酸 (別名:O,O'-ジエチル=ジチオホスファート)	二監相当	三監相当でない	3
3-2252	542-18-7	クロロシクロヘキサン	二監相当		6
3-2279	2579-20-6	1,3-ビス(アミノメチル)シクロヘキサン (別名:シクロヘキサン-1,3-ジイルビス(メチルアミン))	二監相当		8
5-545	3896-11-5	2-(2'-ヒドロキシ-3'-tert-ブチル-5'-メチルフェニル)-5-クロロベンゾトリアゾール(別名:ブメトリゾール)	二監相当でない		10
4-852	6362-80-7	2,4-ジフェニル-4-メチルペンテン-1	二監相当	三監相当 【判定済み】	12
3-392	99-09-2	m-ニトロアニリン(別名:3-ニトロベンゼンアミン)	二監相当 【告示済み】	三監相当	15
3-2229	100-40-3	4-ビニル-1-シクロヘキセン	二監相当 【告示済み】	三監相当	17
3-106	100-61-8	N-メチルアニリン	二監相当 【告示済み】	三監相当	19
5-716	100-69-6	2-ビニルピリジン	二監相当 【告示済み】	三監相当	21
3-39	106-43-4	p-クロルトルエン(別名:p-クロロトルエン)		三監相当	23
2-59	109-64-8	1,3-ジブロモプロパン	二監相当 【告示済み】	三監相当	25
3-903 3-930	120-83-2	2,4-ジクロロフェノール(別名:2,4-ジクロロフェノール)		三監相当	28
1-110	7550-35-8	臭化リチウム	二監相当 【告示済み】	三監相当でない	31

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	2-319	CAS No.	115-70-8
判定結果	<p>人健康影響 収集された情報からは第二種監視化学物質相当に該当するとは判断されない</p> <p>生態影響 収集された情報からは第三種監視化学物質相当に該当するとは判断されない</p>		
名称 構造式等	<p>名称： 2-アミノ-2-エチル-1, 3-プロパンジオール</p> $ \begin{array}{c} \text{NH}_2 \\ \\ \text{HO}-\text{CH}_2-\text{C}-\text{C}_2\text{H}_5 \\ \\ \text{CH}_2\text{OH} \end{array} $		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	<p>陰性</p> <p>純度 99.4%. 溶媒 (注射用水-溶解).</p> <p>TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA.</p> <p>-S9mix 群 : 5000 μg/plate</p> <p>+S9mix 群 : 5000 μg/plate (2500 μg/plate 以上で被験物質の析出)</p>		
染色体 異常	<p>陰性</p> <p>純度 99.4%. 溶媒 (生理食塩水-溶解). CHL/IU</p> <p>1.2mg/mL(10mM)まで実施した細胞増殖抑制試験結果を参考に以下の濃度まで実施.</p> <p>-S9mix 群 : 1.200 mg/ mL</p> <p>+S9mix 群 : 1.200 mg/ mL</p> <p>24 時間処理群 : 1.200 mg/ mL</p> <p>48 時間処理群 : 1.200 mg/ mL (50%以上細胞増殖抑制濃度)</p>		
反復経口投 与毒性・生 殖発生毒性 併合試験 (ReproTox)	投与方法	強制経口投与 溶媒：注射用水	
	純度	99.4%	
	用量	3 投与群 (250, 500, 1000 mg/kg/day)	
	死亡	-	
	NOEL	反復投与毒性 : 500 mg/kg/ day 生殖発生毒性 : 1000 mg/kg/day	
	推定根拠	反復投与毒性 : 組織学的検査(前胃及び腺胃粘膜細胞浸潤・腺胃びらん・腺胃粘膜肥厚・ 腺胃 Globule Leucocyte 増加・胃境界縁肥厚 : 1000♂) 生殖発生毒性 : 全群で特に毒性学的影響は認められていない	
	他の毒性	反復投与毒性 : 特になし 生殖発生毒性 : 特になし	
回復性	問題なし		
人健康影 響判定根 拠	Ames 試験及び染色体異常試験は陰性、NOEL500mg/kg/day であることから第二種監視化学物質相当でない。		

藻類生長 阻害試験	<p>生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法： OECD-TG201(1984) 培養方式： 振とう培養 純度： 100% 試験濃度： 設定濃度 10、18、32、56、100mg/L 実測濃度 9.2、16、28、52、97mg/L (算術平均値) 助剤： なし 48hErC50 (設定値に基づく) =51mg/L 48hNOECr (設定値に基づく) =18mg/L</p>
ミジンコ 急性遊泳 阻害試験	<p>生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG202 試験方式： 止水式 純度： 100% 試験濃度： 設定濃度 100mg/L (限度試験) 実測濃度 97mg/L (幾何平均値) 助剤： なし 48hEiC50 (実測値に基づく) >97mg/L (試験上限濃度で影響が認められなかった。)</p>
ミジンコ 繁殖試験	<p>生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG211 試験方式： 半止水式、週に3回換水 純度： 100% 試験濃度： 設定濃度 4.6、10、22、46、100mg/L 実測濃度 4.0、8.6、19、41、89mg/L (時間加重平均値) 助剤： なし 21dNOEC (実測値に基づく) =4.0mg/L</p>
魚類急性 毒性試験	<p>生物種： ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法： OECD-TG203 試験方式： 半止水式、48時間後に換水 純度： 100% 試験濃度： 設定濃度 100mg/L (限度試験) 実測濃度 97mg/L (幾何平均値) 助剤： なし 96hLC50 (実測値に基づく) >97mg/L (試験上限濃度で影響が認められなかった。)</p>
生態影響 判定根拠	<p>藻類生長阻害試験において 48hErC50=51mg/L 及び 48hNOECr=18mg/L であり、ミジンコ急性遊泳阻害試験及び魚類急性毒性試験において試験上限濃度で影響が認められず、かつミジンコ繁殖阻害試験において 21dNOEC=4.0mg/L であることから、第三種監視化学物質相当でない。</p>
備考	<p>対水溶解度： 1000g/L (25℃、推定値) SRC PhysProp Database 水と混和 The Merck Index</p>

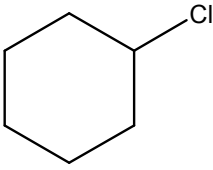
既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	2-1896	CAS No.	298-06-6
判定結果	人健康影響 第二種監視化学物質相当 生態影響 収集された情報からは第三種監視化学物質相当に該当するとは判断されない		
名称 構造式等	名称：O,O'-ジエチルジチオリン酸 (別名：O,O'-ジエチル=ジチオホスファート) <div style="text-align: center;">  </div>		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	強い陽性 比活性値=1691rev./mg (-S9mix 群:TA1535) -S9mix 群の TA100 及び TA1535 並びに+S9mix 群の TA1535 で対照群の 2 倍を超える変異コロニーの誘発 純度 95.1%. 溶媒 (脱水 DMSO-溶解). TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA. -S9mix 群 : 625 μg/plate (TA1535) 2500 μg/plate (TA100 : 313 μg/plate 以上で菌の生育阻害) 5000 μg/plate (TA1537 : 313 μg/plate 以上で菌の生育阻害、 TA98 : 1250 μg/plate 以上で菌の生育阻害、 WP2 uvrA : 最高用量で菌の生育阻害) +S9mix 群 : 5000 μg/plate (TA100 : 625 μg/plate 以上で菌の生育阻害、 TA1537 : 2500 μg/plate 以上で菌の生育阻害、 TA98,TA1537,WP2 uvrA : 1250 μg/plate 以上で被験物質の析出) (再試験) -S9mix 群 : 625 μg/plate (TA1535) 1250 μg/plate (TA100 : 313 μg/plate 以上で菌の生育阻害) 2500 μg/plate (TA1537 : 313 μg/plate 以上で菌の生育阻害) 5000 μg/plate (TA98 : 2500 μg/plate 以上で菌の生育阻害、 WP2 uvrA : 最高用量で菌の生育阻害) +S9mix 群 : 2500 μg/plate (TA1537 : 最高用量で菌の生育阻害) 5000 μg/plate (TA100 : 1250 μg/plate 以上で菌の生育阻害、 TA98,TA1537,WP2 uvrA : 1250 μg/plate 以上で被験物質の析出)		
染色体 異常	陽性 D20=0.404mg/mL (24 時間処理群群 : 構造異常) ±S9mix 群及び 24 時間処理群で構造異常の誘発並びに-S9mix 群で数的異常の誘発 純度 95.1%. 溶媒 (脱水 DMSO-溶解). CHL/IU 2.7mg/mL(10mM)まで実施した細胞増殖抑制試験結果を参考に以下の濃度まで実施. -S9mix 群 : 0.240mg/ mL (細胞毒性のため 0.168mg/ mL まで観察) +S9mix 群 : 0.240mg/ mL (50%以上細胞増殖抑制濃度) 24 時間処理群 : 0.175mg/mL (50%以上細胞増殖抑制濃度)		
反復経口投	投与方法	強制経口投与 溶媒 : 1.0% Tween80 を含む 0.5% CMC-Na 液	

与毒性・生殖発生毒性併合試験 (ReproTox)	純度	98.9%
	用量	3投与群 (30, 100, 300 mg/kg/day)
	死亡	予備試験 1000 : ♂5/5・♀2/5 本試験 300 : ♀8/17
	NOEL	反復投与毒性 : <30 mg/kg/ day 生殖発生毒性 : 100mg/kg/day
	推定根拠	反復投与毒性 : 一般状態(流涎 : 30 以上♂♀) 血液生化学的検査(ChE ↓ : 30 以上♀) 生殖発生毒性 : 生後4日出生児体重 ↓ : 300♂ 生後4日生存率 ↓ : 300♀
他の毒性	反復投与毒性 : 体重 ↓ (300♂♀) 一般状態(軟便 : 300♂♀) F O B (流涎 : 100以上♂、移動量 ↓・自発運動 ↓ : 300♀) 血液学的検査(RBC ↓・HGB ↓ : 300♂、PLT ↓ : 300♀) 血液生化学的検査(TP ↓ : 300♂、K ↑ : 300♀) 脳ChE ↓ : 100以上♀・300♂ 絶対重量(唾液腺 ↓・精巣上体 ↓ : 300♂、胸腺 ↑ : 100以上♂、腎 ↑ : 300♀、: 300♂) 相対重量(胸腺 ↑・肝 ↑・脾 ↑ : 300♂、腎 ↑ : 300♂♀) 組織学的所見(腺胃一びらん : 300♂、腎臓一 : 尿細管硝子滴 : 300♂、精巣一精細管萎縮・セルトリ細胞空胞化 : 300♂、精巣上体一管内細胞残屑・精子減少 : 300♂) 回復期 : 精巣重量 ↓ : 300♂ 組織学的所見(精巣一胚細胞減少・間細胞増生 : 300♂、腎一リンパ球浸潤 : 300♀、肝一肝細胞の脂肪化 : 300♂) 生殖発生毒性 : 特になし	
回復性	脳 ChE ↓ 精巣上体 ↓、精巣一精細管萎縮・セルトリ細胞空胞化、精巣上体一管内細胞残屑・精子減少	
人健康影響判定根拠	Ames 試験及び染色体異常試験は陽性 (Ames 試験は強い陽性)、NOEL30mg/kg/day 未満であることから第二種監視化学物質相当。	
藻類生長阻害試験	生物種 : <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法 : OECD-TG201(1984) 培養方式 : 振とう培養 純度 : 99% 試験濃度 : 設定濃度 5.0、11、22、47、100mg/L 実測濃度 設定値の 91~101% (0h) 設定値の 96~102% (72h) 助剤 : なし 72hErC50 (設定値に基づく) >100mg/L 72hNOECr (設定値に基づく) =22mg/L	

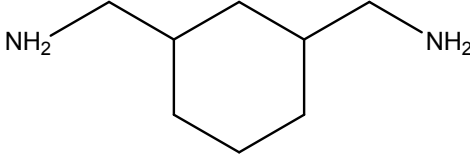
ミジンコ 急性遊泳 阻害試験	<p>生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：OECD-TG202 試験方式：止水式 純度：99% 試験濃度：設定濃度 0.10、0.32、1.0、3.2、10、32、100mg/L 実測濃度 0.095、0.31、0.95、3.1、9.8、32、100mg/L（幾何平均値） 助剤：なし 48hEC50（実測値に基づく）=4.5mg/L</p>
ミジンコ 繁殖試験	<p>生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：OECD-TG211 試験方式：半止水式、毎日換水 純度：99% 試験濃度：設定濃度 0.50、1.0、2.0、4.0、8.0mg/L 実測濃度 0.50、1.0、2.1、4.3、8.7mg/L（時間加重平均値） 助剤：なし 21dNOEC（実測値に基づく）=1.0mg/L</p>
魚類急性 毒性試験	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG203 試験方式：半止水式、24時間毎に換水 純度：99% 試験濃度：設定濃度 10、18、32、56、100mg/L 実測濃度 9.1、18、31、58、100mg/L（幾何平均値） 助剤：なし 96hLC50（実測値に基づく）=66mg/L</p> <p>また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 31 mg/L 群：表層遊泳（72hr 1/10） 異常遊泳（動作の緩慢）（96hr 1/10） 58 mg/L 群：異常遊泳（動作の緩慢）（48hr 1/10、72hr 6/8、96hr 7/7）</p>
生態影響 判定根拠	<p>藻類生長阻害試験において試験上限濃度で 72hErC50 が決定されず、また 72hNOECr = 22mg/L であり、ミジンコ急性遊泳阻害試験において 48hEC50 = 4.5mg/L であり、魚類急性毒性試験において 96hLC50 = 66mg/L であり、かつミジンコ繁殖阻害試験において 21dNOEC = 1.0mg/L であることから、第三種監視化学物質相当でない。</p>
備考	<p>対水溶解度： >100mg/L 試験機関測定値</p>

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-2252	CAS No.	542-18-7
判定結果	人健康影響 第二種監視化学物質相当		
名称 構造式等	<p>名 称：クロロシクロヘキサン</p> 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	<p>陰性 純度 99.7%. 溶媒 (DMSO-溶解). TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA. 5000 μg/plate まで実施した用量設定試験結果を参考に以下の濃度まで実施 (本試験 I、II) -S9mix 群：156 μg/plate (TA100, TA1535：78.1 μg/plate 以上で菌の生育阻害) 313 μg/plate (TA98, TA1537, WP2 uvrA/pKM101： 最高用量で菌の生育阻害) +S9mix 群：313 μg/plate (TA100, TA1535：156 μg/plate 以上で菌の生育阻害、 TA98, TA1537：最高用量で菌の生育阻害) 625 μg/plate (WP2 uvrA/pKM101： 313 μg/plate 以上で菌の生育阻害)</p>		
染色体 異常	<p>陰性 純度 99.7%. 溶媒 (DMSO-溶解). CHL/IU. 5.0mg/mL まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施。 -S9mix 群：0.35mg/mL (50%以上細胞増殖抑制濃度) +S9mix 群：0.45mg/mL (50%以上細胞増殖抑制濃度) 24 時間処理群：0.275mg/mL (50%以上細胞増殖抑制濃度)</p>		
反復経口投 与毒性・生 殖発生毒性 併合試験 (ReproTox)	投与方法	強制経口投与 溶媒：オリブ油	
	純度	99.7%	
	用量	3 投与群 (10, 60, 300 mg/kg/day)	
	死亡	予備試験 1000：3/3♂・3/3♀ 本試験 10：1/12♀、60：1/12♀ [共に切迫屠殺]	
	NOEL	反復投与毒性：10 mg/kg/day 生殖発生毒性：300 mg/kg/day	
推定根拠	<p>反復投与毒性： 組織学的所見 (膀胱-粘膜上皮単純性過形成：60 以上♂・300♀) 生殖発生毒性： 全群で特に毒性学的影響は認められていない</p>		

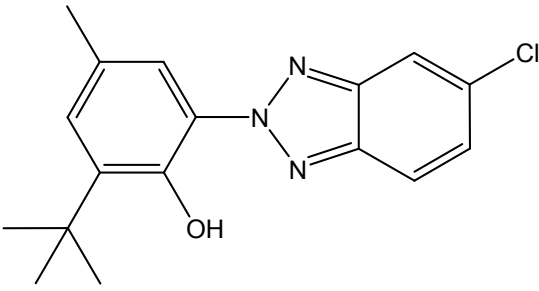
	他の毒性	反復投与毒性： 体重↓：300 ♂♀ 一般状態（流涎：300♂♀） 相対重量（腎臓↑：300♂） 血液生化学的検査（無機リン↓：300♀） 組織学的所見（腎－近位尿細管硝子滴：300♂、 膀胱－粘膜固有層リンパ球浸潤：300 ♂♀） 生殖発生毒性： 特になし			
	回復性	腎↑、膀胱－粘膜上皮過形成・粘膜固有層リンパ球浸潤			
人健康影響判定根拠	Ames 試験及び染色体異常試験が陰性であるが、NOEL10mg/kg/day であることから、第二種監視化学物質相当。				
環境調査 ※1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値
	水質	S52	0/6	—	0.02～10(μ g/L)
	底質	S52	0/6	—	0.0001～2(μ g/g-dry)
	魚類	—	—	—	—
備考	※1 S53 版「化学物質と環境」（環境省環境保健部環境安全課）				

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-2279	CAS No.	2579-20-6
判定結果	人健康影響 第二種監視化学物質相当		
名称 構造式等	<p>名 称： 1,3-ビス (アミノメチル) シクロヘキサン (別名：シクロヘキサン-1, 3-ジイルビス (メチルアミン))</p> 		
分解性	難分解		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	<p>陰性 純度 99.98%. 溶媒 (注射用水-溶解). TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA/pKM101. 5000 μg/plate まで実施した用量設定試験結果を参考に以下の濃度まで実施 (本試験 I、II) -S9mix 群：1250 μg/plate (TA98, TA100, TA1535, TA1537 : 最高用量で菌の生育阻害) 5000 μg/plate(WP2 uvrA/pKM101 : 2500 μg/plate 以上で菌の生育阻害) +S9mix 群：1250 μg/plate (TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA : 最高用量で菌の生育阻害)</p>		
染色体 異常	<p>陽性 D20=0.56mg/mL (-S9mix 群：構造異常) -S9mix 群で構造異常の誘発. 純度 99.98%. 溶媒 (生理食塩水-溶解). CHL/IU. 1.5mg/mL(10mM)まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施. (本試験) -S9mix 群：0.5 mg/mL(50%以上細胞増殖抑制濃度) +S9mix 群：0.5 mg/mL(50%以上細胞増殖抑制濃度) (確認試験) +S9mix 群：0.5 mg/mL(50%以上細胞増殖抑制濃度)</p>		
反復経口投 与毒性・生 殖発生毒性 併合試験 (ReproTox)	投与方法	強制経口投与 溶媒：精製水	
	純度	99.98%	
	用量	3 投与群 (10,60,300 mg/kg/day)	
	死亡	予備試験 1000 : 3/3♂♀ 本試験 300 : 1/12♂	
NOEL	反復投与毒性：60 mg/kg/day 生殖発生毒性：300mg/kg/day		

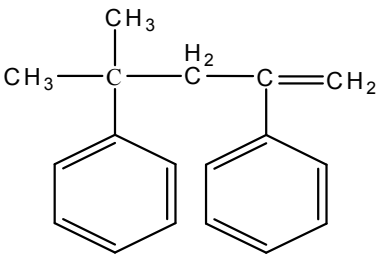
	推定根拠	<p>反復投与毒性：</p> <p>体重↓（300♂）</p> <p>一般状態（流涎：300♂♀）</p> <p>血液学的検査（RET↑：300♂）</p> <p>血液生化学的検査（TP↓：300♂、GPT↑・ALP↑：300♀）</p> <p>絶対重量（副腎↑：300♂）</p> <p>相対重量（副腎↑：300♂♀、腎↑：300♀）</p> <p>組織学的所見（前胃－限局性炎症性細胞浸潤・限局性角化亢進・限局性扁平上皮過形成・潰瘍：300♂♀、 精巣－精細管の萎縮・び慢性間細胞過形成：300♂、 精巣上体－精巣上体管萎縮・管内細胞残渣・管内精子消失： 300♂）</p> <p>生殖発生毒性：</p> <p>全群で特に毒性学的影響は認められていない</p>
	他の毒性	<p>反復投与毒性：</p> <p>特になし</p> <p>生殖発生毒性：</p> <p>特になし</p>
	回復性	副腎↑、ALP↑、前胃－限局性炎症性細胞浸潤・限局性扁平上皮過形成、精巣－精細管萎縮
人健康影響判定根拠	Ames 試験は陰性であるが、染色体異常試験は陽性、NOEL60mg/kg/day であることから、第二種監視化学物質相当。	
備考		

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	5-545	CAS No.	3896-11-5
判定結果	人健康影響 収集された情報からは第二種監視化学物質相当に該当するとは判断されない		
名称 構造式等	<p>名 称：2- (2'-ヒドロキシ-3'-tert-ブチル-5'-メチルフェニル) -5-クロロベンゾトリアゾール (別名：ブメトリゾール)</p> 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	<p>陰性 純度 99.9%. 溶媒 (DMSO-懸濁). TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA. 5000 μg/plate まで実施した用量設定試験結果を参考に以下の濃度まで実施 (本試験 I, II)</p> <p>-S9mix 群 : 19.5 μg/plate (TA98, TA1537 : 9.77 μg/plate 以上で菌の生育阻害) 312.5 μg/plate (TA100 : 156.3 μg/plate 以上で菌の生育阻害) 1250 μg/plate (TA1535 : 625 μg/plate 以上で菌の生育阻害 WP2 uvrA : 最高用量で菌の生育阻害)</p> <p>+S9mix 群 : 312.5 μg/plate (TA98, TA100, TA1535, TA1537 : 最高用量で菌の生育阻害) 1250 μg/plate (WP2 uvrA : 最高用量で菌の生育阻害)</p>		
染色体 異常	<p>陰性 純度 99.9%. 溶媒 (DMSO-懸濁). CHL/IU. 3.2mg/mL(10mM)まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施. -S9mix 群 : 2.4mg/mL (50%以上細胞増殖抑制濃度) +S9mix 群 : 2.4mg/mL (50%以上細胞増殖抑制濃度) 24 時間処理群 : 1.2mg/mL (50%以上細胞増殖抑制濃度)</p>		
反復経口投 与毒性・生 殖発生毒性 併合試験 (ReproTox)	投与方法	強制経口投与 溶媒 : 0.5%メチルセルロース水溶液	
	純度	99.9%	
	用量	3 投与群 (62.5, 250, 1000mg/kg/day)	
	死亡	-	
	NOEL	反復投与毒性 : 1000 mg/kg/day 生殖発生毒性 : 1000 mg/kg/day	
推定根拠	反復投与毒性 : 全群で特に毒性学的影響は認められていない 生殖発生毒性 : 全群で特に毒性学的影響は認められていない		

	他の毒性	反復投与毒性： 特になし 生殖発生毒性： 特になし
	回復性	問題なし
人健康影響判定根拠	Ames 試験及び染色体異常試験は陰性、NOEL1000mg/kg/day であることから、第二種監視化学物質相当ではない。	
備考		

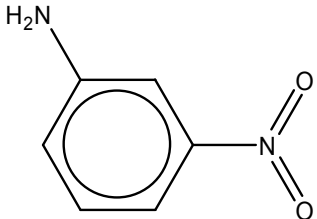
既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	4-852	CAS No.	6362-80-7
判定結果	人健康影響 第二種監視化学物質相当 生態影響 第三種監視化学物質相当 (平成18年12月22日判定済み)		
名称 構造式等	名称：2, 4-ジフェニル-4-メチルペンテン-1 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	陰性 純度 96.97%. 溶媒 (DMSO-溶解). TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA. 5000 μg/plate まで実施した用量設定試験結果を参考に以下の濃度まで実施 (本試験 I, II) -S9mix 群 : 78.1 μg/plate (TA98, TA1537 : 39.1 μg/plate 以上で菌の生育阻害) 312.5 μg/plate (TA100, TA1535 : 156.3 μg/plate 以上で菌の生育阻害) 5000 μg/plate (WP2 uvrA : 最高用量で菌の生育阻害) +S9mix 群 : 78.1 μg/plate (TA1537 : 最高用量で菌の生育阻害) 312.5 μg/plate (TA98 : 最高用量で菌の生育阻害) 1250 μg/plate (TA100 : 625 μg/plate 以上で菌の生育阻害) 5000 μg/plate (TA1535 : 2500 μg/plate 以上で菌の生育阻害、 WP2 uvrA : 最高用量で菌の生育阻害)		
染色体 異常	陰性 純度 96.97%. 溶媒 (DMSO-溶解). CHL/IU. 2.4mg/mL(10mM)まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施. -S9mix 群 : 0.1mg/mL (50%以上細胞増殖抑制濃度) +S9mix 群 : 0.2mg/mL (50%以上細胞増殖抑制濃度) 24 時間処理群 : 005mg/mL (50%以上細胞増殖抑制濃度)		
反復経口投 与毒性・生 殖発生毒性 併合試験 (ReproTox)	投与方法	強制経口投与 溶媒：トウモロコシ油	
	純度	96.97%	
	用量	3 投与群 (45, 180, 720mg/kg/day)	
	死亡	予備試験 1000 : 1/5♂ 本試験 720 : 2/18♀	
NOEL	反復投与毒性 : 45 mg/kg/day 未満 生殖発生毒性 : 180 mg/kg/day		

推定根拠	<p>反復投与毒性： 絶対重量（肝↑：45以上♂・180以上♀） 相対重量（肝↑：45以上♂・180以上♀） 組織学的所見（肝一小葉中心性肝細胞腫大・肝細胞好塩基性変化： 45以上♂・180以上♀）</p> <p>生殖発生毒性： 黄体数↓・着床数↓・分娩児数↓・分娩生児数↓・生後4日生存児数↓： 720</p>
他の毒性	<p>反復投与毒性： 体重↓：720♂♀ 尿検査（尿量↑：720♂♀、尿比重↓：720♂） 血液学検査（PT↑：180以上♂、APTT↑：180以上♂・720♀、 Fib↑：720♂、RBC↓・Htc↓：720♀） 血液生化学検査（TP↑：180以上♀・720♂、Ca↑：180以上♂、γ-GTP↑・ Bil↑：720♂♀、Alb↑・A/G比↑・Cho↑・Cl↓：720♂、Glu↓：720♀） 絶対重量（甲状腺↑：720♂♀、腎↑：180以上♂） 相対重量（甲状腺↑：720♂♀、腎↑：180以上♂、精巣↓：720♂） 組織学的所見（腎尿管上皮硝子滴：720♂、 腎集合管上皮の増生・尿管の拡張：720♀、 甲状腺一ろ胞上皮びまん性過形成：720♂♀ 脾髄外造血：720♀）</p> <p>生殖発生毒性： 特になし</p>
回復性	γ-GTP↑、甲状腺↑、肝↑、腎↑、肝一小葉中心性肝細胞腫大
人健康影響判定根拠	Ames試験及び染色体異常試験は陰性であるが、NOEL45mg/kg/day未満であることから第二種監視化学物質相当。
藻類生長阻害【審議済み】	<p>生物種：<i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法：化審法TG 培養方式：振とう培養（密閉系） 純度：97.4% 試験濃度：設定濃度 0.12 mg/L（試験液調製可能最高濃度における限度試験） 実測濃度 0.059mg/L（時間加重平均値） 助剤：DMF 100 μL/L 72hErC50（実測値に基づく）>0.059mg/L 72hNOECr（実測値に基づく）=0.059mg/L （限度試験濃度では影響が認められなかった）</p> <p>①培地への溶解限度 0.12mg/L</p>

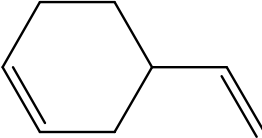
ミジンコ 急性遊泳 阻害【審 議済み】	<p>生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：半止水式、24 時間後に換水 純度：97.4% 試験濃度：設定濃度 0.030、0.042、0.060、0.085、0.12*mg/L ※試験液調製可能最高濃度 実測濃度 0.023、0.031、0.046、0.064、0.096mg/L（時間加重平均値） 助剤：DMF 100 μL/L 48hEC50（実測値に基づく）=0.057 mg/L</p> <p>①試験用水への溶解限度 0.12mg/L</p>
魚類急性 毒性【審 議済み】	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：半止水式、24 時間毎に換水 純度：97.4% 物質濃度：設定濃度 0.040、0.055、0.075、0.10、0.14mg/L 実測濃度 0.025、0.037、0.050、0.064、0.092mg/L（時間加重平均値） 助剤：DMF 100 μL/L 96hLC50（実測値に基づく）>0.092 mg/L</p> <p>また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 0.092mg/L 群：内出血（48hr 1/10、72hr 1/10、96hr 1/10） 表層遊泳（72hr 2/10、96hr 2/10）</p> <p>①試験用水への溶解限度 0.14mg/L</p>
生態影響 判定根拠	<p>ミジンコ急性遊泳阻害試験において 48hEC50=0.057mg/L（実測値に基づく）であることから、第三種監視化学物質相当。</p>
備考	<p>水溶解度：難溶</p>

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-392	CAS No.	99-09-2
判定結果	人健康影響 第二種監視化学物質相当 (平成12年9月22日告示済み) 生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称: <i>m</i> -ニトロアニリン (別名: 3-ニトロベンゼンアミン) <div style="text-align: center;">  </div>		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
人健康影 響判定根 拠	第二種監視化学物質として平成12年9月22日に告示済み。 強い変異原性がみとめられることから、化学物質排出把握管理促進法の第二種指定化学物質に指定されており、人の健康に係る被害を生ずるおそれがあることから、第二種監視化学物質相当。		
藻類生長 阻害試験	生物種: <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法: OECD-TG201(1984) 培養方式: 振とう培養 純度: 100% 試験濃度: 設定濃度 1.0、2.6、6.4、16、40、100mg/L 実測濃度 1.0、2.5、6.3、16、39、98mg/L (幾何平均値) 助剤: なし 72hErC50 (実測値に基づく) = 43mg/L 72hNOECr (実測値に基づく) = 6.3mg/L		
ミジンコ 急性遊泳 阻害試験	生物種: オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法: OECD-TG202 試験方式: 止水式 純度: 100% 試験濃度: 設定濃度 2.6、3.6、5.1、7.1、10mg/L 実測濃度 2.6、3.6、5.0、7.0、9.8mg/L (時間加重平均値) 助剤: なし 48hEC50 (実測値に基づく) = 9.1mg/L		
ミジンコ 繁殖試験	生物種: オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法: OECD-TG211 試験方式: 半止水式、週に3回換水 純度: 100% 試験濃度: 設定濃度 0.063、0.13、0.25、0.50、1.0mg/L 実測濃度 0.062、0.12、0.25、0.50、1.0mg/L (時間加重平均値) 助剤: なし 21dNOEC (実測値に基づく) = 0.12mg/L		

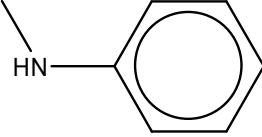
魚類急性 毒性試験	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG203 試験方式：半止水式、48時間後に換水 純度：100% 試験濃度：設定濃度 39、55、77、110、150mg/L 実測濃度 39、54、76、110、150mg/L（時間加重平均値） 助剤：なし 96hLC50（実測値に基づく）=90mg/L</p> <p>また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 54 mg/L 群：表層集中（24h、48h、72h、96h）個体数不明 76 mg/L 群：表層集中（24h、48h、72h、96h）個体数不明</p>				
他の毒性 情報	<p>[SIAR (OECD/HPV プログラム) より引用]</p> <p>藻類に対する毒性として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 72hEbC50=20mg/L <p>ミジンコに対する毒性として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <i>Daphnia magna</i> 24hEC50=36mg/L ・ <i>Daphnia magna</i> 21dNOEC=0.5mg/L <p>魚類に対する毒性として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <i>Oryzias latipes</i> 48hLC50=96mg/L ・ <i>Oryzias latipes</i> 96hLC50=67mg/L 				
生態影響 判定根拠	<p>芳香族アミンを構造中に有し、かつミジンコ急性遊泳阻害試験において48hEC50=9.1mg/Lであることから、第三種監視化学物質相当。</p>				
環境調査 ※1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値
	水質	S53	0/24	—	0.3~1(μ g/L)
	底質	S53	0/15	—	0.01~0.033(μ g/g-dry)
	魚類	—	—	—	—
備考	<p>※1 S54 版「化学物質と環境」（環境省環境保健部環境安全課） 対水溶解度： 0.09g/100g (25℃) 化学大辞典編集委員会編「化学大辞典」</p>				

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-2229	CAS No.	100-40-3
判定結果	人健康影響 第二種監視化学物質相当 (平成12年9月22日告示済み) 生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称: 4-ビニル-1-シクロヘキセン 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
人健康影 響判定根 拠	第二種監視化学物質として平成12年9月22日に告示済み。 発がん性がみとめられることから、化学物質排出把握管理促進法の第一種指定化学物質に 指定されており、人の健康に係る被害を生ずるおそれがあることから、第二種監視化学物 質相当。		
藻類生長 阻害試験	生物種: <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法: OECD-TG201(1984) 培養方式: 振とう培養 (密閉系) 純度: 96% 試験濃度: 設定濃度 2.5、4.5、7.9、14、25 (分散可能最高濃度) mg/L 実測濃度 0.40、0.67、1.2、2.2、4.0mg/L (幾何平均値) 助剤: HCO-40 及び DMF(3:1) 100 mg/L 48hErC50 (実測値に基づく) >4.0mg/L 48hNOECr (実測値に基づく) =2.2mg/L ①試験実施者は、被験物質濃度減少の主な原因について揮散および藻体への移行によるも のと考察している。		
ミジンコ 急性遊泳 阻害試験	生物種: オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法: OECD-TG202 試験方式: 半止水式、24 時間後に換水 純度: 96% 試験濃度: 設定濃度 0.25、0.53、1.1、2.4、5.0mg/L 実測濃度 0.15、0.31、0.60、1.4、2.9mg/L (幾何平均値) 助剤: HCO-40 及び DMF(3:2) 25mg/L 48hEC50 (実測値に基づく) =1.9mg/L		
ミジンコ 繁殖試験	生物種: オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法: OECD-TG211 試験方式: 半止水式、毎日換水 純度: 96% 試験濃度: 設定濃度 0.060、0.16、0.44、1.2、3.2mg/L 実測濃度 0.025、0.067、0.23、0.51、1.5mg/L (時間加重平均値) 助剤: HCO-60 及び DMF(1:3) 51mg/L 21dNOEC (実測値に基づく) =0.23mg/L		

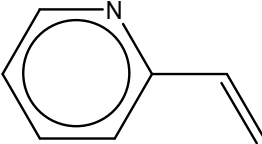
魚類急性 毒性試験	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG203 試験方式：半止水式、24 時間毎に換水 純度：96% 試験濃度：設定濃度 1.0、1.8、3.3、6.0、11、20mg/L 実測濃度 0.62、1.1、1.9、3.1、6.0、12mg/L（幾何平均値） 助剤：HCO-40 及び DMF(3:2) 被験物質設定濃度の 5 倍、100mg/L（助剤対照区） 96hLC50（実測値に基づく）=4.6mg/L</p> <p>また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 1.9 mg/L 群：異常遊泳（48hr 10/10、72hr 10/10） 3.1mg/L 群：異常遊泳（24hr 10/10、48hr 10/10、72hr 10/10、96hr 9/10） 遊泳不能（96hr 1/10）</p>
生態影響 判定根拠	魚類急性毒性試験において 96hLC50=4.6mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。
備考	対水溶解度：50mg/L（財）化学品検査協会編集「化審法の既存化学物質安全性点検データ集」

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-106	CAS No.	100-61-8
判定結果	人健康影響 第二種監視化学物質相当 (平成12年9月22日告示済み) 生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称: <i>N</i> -メチルアニリン 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
人健康影 響判定根 拠	第二種監視化学物質として平成12年9月22日に告示済み。 生殖毒性がみとめられることから、化学物質排出把握管理促進法の第一種指定化学物質に 指定されており、人の健康に係る被害を生ずるおそれがあることから、第二種監視化学物 質相当。		
藻類生長 阻害試験	生物種: <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法: OECD-TG201(1984) 培養方式: 振とう培養 純度: 98%以上 試験濃度: 設定濃度 0.14、0.39、1.1、3.1、8.6、24mg/L 実測濃度 0.12、0.32、0.93、2.7、7.4、20mg/L (幾何平均値) 助剤: なし 72hErC50 (実測値に基づく) >20mg/L 72hNOECr (実測値に基づく) =0.32mg/L		
ミジンコ 急性遊泳 阻害試験	生物種: オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法: OECD-TG202 試験方式: 止水式 純度: 98%以上 試験濃度: 設定濃度 1.0、1.8、3.2、5.8、11、19mg/L 実測濃度 設定値の102~104% (0h) 設定値の92~97% (72h) 助剤: なし 48hEC50 (設定値に基づく) =5.6mg/L		
ミジンコ 繁殖試験	生物種: オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法: OECD-TG202 試験方式: 半止水式、週に3回換水 純度: 98%以上 試験濃度: 設定濃度 0.32、0.57、1.0、1.9、3.3、6.0mg/L 実測濃度 0.29、0.54、1.0、1.8、3.3、6.0mg/L (時間加重平均値) 助剤: なし 21dNOEC (実測値に基づく) =0.29mg/L		

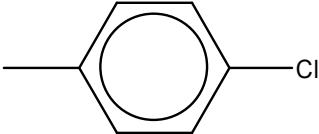
魚類急性 毒性試験	生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG203 試験方式：半止水式、24 時間毎に換水 純度：98%以上 試験濃度：設定濃度 20、30、44、67、100mg/L 実測濃度 20、30、43、65、97mg/L（幾何平均値） 助剤：なし 96hLC50（設定値に基づく）=58mg/L また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 44mg/L 群：異常遊泳（48hr 1/10、72hr 1/10） 体色明化（48h、72h、96h）個体数不明				
他の毒性 情報	化学物質の環境リスク評価 第3巻（環境省環境保健部環境リスク評価室）より引用 魚類に対する毒性として ・ <i>Danio rerio</i> 96hLC50=0.076mg/L（胚からふ化まで） ・ <i>Oryzias latipes</i> 48hLC50=38mg/L ・ <i>Pimephales promelas</i> 96hLC50=100mg/L				
生態影響 判定根拠	芳香族アミンを構造中に有し、かつミジンコ急性遊泳阻害試験において 48hEC50=5.6mg/Lであることから、第三種監視化学物質相当。				
環境調査 ※1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値
	水質	S51	0/68	—	0.08~0.6(μ g/L)
		H2	3/69	0.038~0.093(μ g/L)	0.03(μ g/L)
	底質	S51	11/68	0.002~0.012(μ g/g-dry)	0.002~0.008(μ g/g-dry)
		H2	4/66	0.0078~0.014(μ g/g-dry)	0.007(μ g/g-dry)
	魚類	H2	0/69	—	0.0027 (μ g/g-wet)
	大気	H2	1/51	220 (ng/m ³)	150 (ng/m ³)
環境調査 ※2	水質	H12	0/91	—	0.02 (μ g/L)
		H14	1/50	0.03 (μ g/L)	0.02 (μ g/L)
	底質	H14	9/24	2~16 (μ g/kg)	1 (μ g/kg)
備考	※1 S52、H3 版「化学物質と環境」（環境省環境保健部環境安全課） ※2 H12、H14 要調査項目測定結果（環境省水環境部企画課） 対水溶解度： 微溶（1%以下）				

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	5-716	CAS No.	100-69-6
判定結果	人健康影響 第二種監視化学物質相当 (平成12年9月22日告示済み) 生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称: 2-ビニルピリジン 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
人健康影 響判定根 拠	第二種監視化学物質として平成12年9月22日に告示済み。 強い変異原性がみとめられることから、化学物質排出把握管理促進法の第一種指定化学物質に指定されており、人の健康に係る被害を生ずるおそれがあることから、第二種監視化学物質相当。		
藻類生長 阻害試験	生物種: <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法: OECD-TG201(1984) 培養方式: 振とう培養 純度: 99% 試験濃度: 設定濃度 9.5、17、31、56、100mg/L 実測濃度 8.2、15、27、48、87mg/L (幾何平均値) 助剤: なし 72hErC50 (実測値に基づく) =62mg/L 72hNOECr (実測値に基づく) =27mg/L		
ミジンコ 急性遊泳 阻害試験	生物種: オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法: OECD-TG202 試験方式: 止水式 純度: 99% 試験濃度: 設定濃度 3.8、6.1、9.8、16、25mg/L 実測濃度 3.2、5.2、7.9、13、19mg/L (時間加重平均値) 助剤: なし 48hEC50 (実測値に基づく) =9.5mg/L		
ミジンコ 繁殖試験	生物種: オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法: OECD-TG211 試験方式: 半止水式、毎日換水 純度: 99% 試験濃度: 設定濃度 0.25、0.50、1.0、2.0、4.0mg/L 実測濃度 0.22、0.45、0.90、1.8、3.7mg/L (時間加重平均値) 助剤: なし 21dNOEC (実測値に基づく) =0.9mg/L		

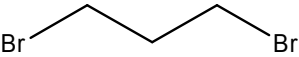
魚類急性 毒性試験	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG203 試験方式：半止水式、24 時間毎に換水 純度：99% 試験濃度：設定濃度 0.94、1.9、3.8、7.5、15、30mg/L 実測濃度 0.91、1.8、3.6、7.2、14、29mg/L（時間加重平均値） 助剤：なし 96hLC50（設定値に基づく）=6.5mg/L</p> <p>また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 1.9 mg/L 群：表層集中（96hr）個体数不明 3.8mg/L 群：表層集中（72hr、96hr）個体数不明</p>				
他の毒性 情報	<p>化学物質の環境リスク評価 第4巻（環境省環境保健部環境リスク評価室）より引用 藻類に対する毒性として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 72hEC50=62mg/L ・ <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 72hNOEC=27mg/L 				
生態影響 判定根拠	<p>魚類急性毒性試験において 96hLC50=6.5mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。</p>				
環境調査 ※1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値
	水質	—	—	—	—
	底質	—	—	—	—
	魚類	—	—	—	—
大気	H3 H16	7/50 3/18	17~30(ng/m ³) 6.2~18(ng/m ³)	16(ng/m ³) 0.4(ng/m ³)	
備考	<p>※1 H4、H17 版「化学物質と環境」（環境省環境保健部環境安全課） 対水溶解度：難溶 化学大事典編集委員会編「化学大事典」</p>				

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-39	CAS No.	106-43-4
判定結果	生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	<p>名称： <i>p</i>-クロロトルエン (別名： <i>p</i>-クロロトルエン)</p> 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
藻類生長 阻害試験	<p>生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法： OECD-TG201(1984) 培養方式： 振とう培養 (密閉系) 純度： 99% 試験濃度： 設定濃度 1.0、1.7、2.9、5.0、8.6、15、25mg/L 実測濃度 0.44、0.74、1.3、2.2、3.5、7.0、12mg/L (幾何平均値) 助剤： HCO-40 及び 2-メトキシエタノール(1:1) 50mg/L 0-48hErC50 (実測値に基づく) =6.1mg/L 0-48hNOECr (実測値に基づく) =2.2mg/L ①試験実施者は、濃度の低下は揮散及び藻体への移行が原因と考察している。</p>		
ミジンコ 急性遊泳 阻害試験	<p>生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG202 試験方式： 半止水式、24 時間後に換水 純度： 99% 試験濃度： 設定濃度 0.5、0.9、1.6、2.8、5.0mg/L 実測濃度 0.19、0.70、1.3、2.3、3.9mg/L (幾何平均値) 助剤： HCO-40 及び 2-メトキシエタノール(1:1) 40mg/L 48hEC50 (実測値に基づく) =2.0mg/L</p>		
ミジンコ 繁殖試験	<p>生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG211 試験方式： 半止水式、24 時間毎に換水 純度： 99% 試験濃度： 設定濃度 0.06、0.16、0.42、1.1、3.0mg/L 実測濃度 0.043、0.12、0.32、0.85、2.3mg/L (時間加重平均値) 助剤： HCO-60 及び DMF(3:7) 60mg/L 21dNOEC (実測値に基づく) =0.32mg/L</p>		

魚類急性 毒性試験	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG203 試験方式：半止水式、24 時間毎に換水 純度：99% 試験濃度：設定濃度 1.0、2.0、4.0、8.0、16mg/L 実測濃度 0.8、1.6、3.2、7.0、15mg/L（幾何平均値） 助剤：HCO-40 及びメチルセロソルブ(1:2) 被験物質設定濃度の 6 倍、 96mg/L（助剤対照区） 96hLC50（実測値に基づく）=6.1mg/L</p> <p>また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 3.2mg/L 群：異常遊泳（24hr 1/10、48hr 4/9、72hr 8/8、96hr 7/7）</p>				
他の毒性 情報	<p>[SIAR (OECD/HPV プログラム) より引用] 藻類に対する毒性として</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>Desmodesmus subspicatus</i> 72hECr50>0.96mg/L、72hNOECr=0.43mg/L <p>ミジンコに対する毒性として</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>Daphnia magna</i> 48hEC50=3.6mg/L • <i>Daphnia magna</i> 16dNOEC=1.0mg/L • <i>Ceriodaphnia dubia</i> 48hEC50=1.7mg/L • <i>Ceriodaphnia dubia</i> 16dNOEC=0.32mg/L <p>魚類に対する毒性として</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>Oryzias latipes</i> 48hLC50=5.2mg/L • <i>Danio rerio</i> 28dNOEC=1.9mg/L 				
生態影響 判定根拠	魚類急性毒性試験において 96hLC50=6.1mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。				
環境調査 ※1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値
	水質	S54	0/18	—	0.006~1(μg/L)
		H1	0/66	—	0.5(μg/L)
	底質	S54	0/18	—	0.00012~0.02(μg/g-dry)
		H1	0/66	—	0.011(μg/g-dry)
魚類	—	—	—	—	
大気	H1	0/24	—	30(ng/m ³)	
環境調査 ※2	水質	H12	0/91	—	0.01 (μg/L)
備考	※1 S55、H2 版「化学物質と環境」（環境省環境保健部環境安全課） ※2 H12 要調査項目測定結果（環境省水環境部企画課） 対水溶解度：370mg/L（25℃）環境庁環境化学物質研究会編「環境化学物質要覧」				

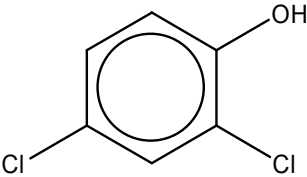
既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	2-59	CAS No.	109-64-8
判定結果	人健康影響 第二種監視化学物質相当 (平成16年7月2日告示済み) 生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称: 1, 3-ジブロモプロパン 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames【審 議済み】	陽性 比活性値=1485rev./mg (+S9mix 群: TA1535) +S9mix 群の TA100 及び TA1535 株で対照群の2倍を超える変異コロニーの誘発。 純度 99.8%。溶媒 (DMSO-溶解)。 TA100, TA1535, TA98, TA1537, WP2 uvrA. -S9mix 群: 1250 μg/plate (最高用量で菌の生育阻害) +S9mix 群: 1250 μg/plate (最高用量で菌の生育阻害)		
染色体 異常【審 議済み】	陽性 D20=0.066mg/mL (+S9mix 群: 構造異常) ±S9mix 群で構造異常の誘発。 純度 99.8%。溶媒 (DMSO-溶解)。CHL/IU。 5mg/mL まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施。 -S9mix 群: 0.18mg/mL (細胞毒性のため 0.12mg/mL まで観察) +S9mix 群: 0.18mg/mL (細胞毒性のため 0.1mg/mL まで観察)		
28 日間 反復投与 【審議済 み】	投与方法	強制経口投与 溶媒: コーン油	
	純度	99.8 %	
	用量	3 投与群 (10, 50, 250 mg/kg)	
	死亡	-	
	NOEL	10 mg/kg/day	
	推定根拠	尿検査 (尿中蛋白質 ↑ : 50 以上♂) 血液生化学的検査 (TP ↑ : 50 以上♂・250♀) 相対重量 (肝 ↑ : 50 以上♀・250♂) 組織学的所見 (肝-小葉中心性肝細胞肥大 : 50 以上♂♀) [回復期] 組織学的所見 (脾-髓外造血亢進 : 50 以上♂)	

	他の毒性	<p>体重↓：250♂</p> <p>一般状態（流涎：250♂♀）</p> <p>尿検査（尿量↑・尿浸透圧↓：250♀）</p> <p>血液学的検査（Hgb↓・Hct↓・Ret↑：250♀）</p> <p>血液生化学的検査（Alb↑・Cho↑・PL↑・Bil↑Cl↑・Ca↑：250♂♀ γ-GTP↑・A/G↑・TG↑・K↓：250♀）</p> <p>絶対重量（胸腺↓：250♀、肝↑：250♂♀）</p> <p>相対重量（心↑・腎↑：250♂♀）</p> <p>組織学的所見（腺胃—びらん：250♂♀ 肝—小葉辺縁部肝細胞空胞化減少：250♂♀）</p> <p>[回復期]</p> <p>血液学的検査（RBC↓・Hgb↓・Hct↓・Ret↑：250♂）</p> <p>血液生化学的検査（GPT↑：250♂）</p> <p>絶対重量（甲状腺↑・胸腺↑：250♀）</p> <p>相対重量（甲状腺↑・胸腺↑：250♀）</p> <p>組織学的所見（脾—褐色色素沈着：250♂♀）</p>
	回復性	Hgb↓、Cho↑、相対重量（肝↑）
判定根拠	Ames 試験及び染色体異常試験は陽性、NOEL10mg/kg/day であることから指定化学物質相当。	
藻類生長 阻害試験	<p>生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i></p> <p>試験法： OECD-TG201(1984)</p> <p>培養方式： 振とう培養（密閉系）</p> <p>純度： 100%</p> <p>試験濃度： 設定濃度 3.2、5.6、10、18、32、56mg/L 実測濃度 3.3、4.9、9.8、17、30、46mg/L（幾何平均値）</p> <p>助剤： なし</p> <p>48hErC50（実測値に基づく）=46mg/L</p> <p>48hNOECr（実測値に基づく）=9.8mg/L</p>	
ミジンコ 急性遊泳 阻害試験	<p>生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i></p> <p>試験法： OECD-TG202</p> <p>試験方式： 止水式（密閉系）</p> <p>純度： 100%</p> <p>試験濃度： 設定濃度 5.6、10、13、18、32mg/L 実測濃度 6.1、8.1、12、19、31mg/L（幾何平均値）</p> <p>助剤： なし</p> <p>48hEC50（実測値に基づく）=8.8mg/L</p>	
ミジンコ 繁殖試験	<p>生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i></p> <p>試験法： OECD-TG211</p> <p>試験方式： 半止水式、24 時間毎に換水</p> <p>純度： 100%</p> <p>試験濃度： 設定濃度 0.46、1.0、2.2、4.6、10、22mg/L 実測濃度 0.41、0.99、1.9、4.7、9.8、18mg/L（時間加重平均値）</p> <p>助剤： なし</p> <p>21dNOEC（実測値に基づく）=0.41mg/L</p>	

魚類急性 毒性試験	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG203 試験方式：半止水式（密閉系）、48時間後に換水 純度：100% 試験濃度：設定濃度 4.6、5.6、6.8、8.3、10、12mg/L 実測濃度 4.2、5.4、6.4、8.3、9.4、13mg/L（幾何平均値） 助剤：なし 96hLC50（実測値に基づく）=7.8mg/L</p> <p>また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。</p> <p>4.2 mg/L 群：上層遊泳（24hr 4/10、48hr 10/10、72hr 10/10、96hr 9/10） 皮下出血（96hr 1/10）</p> <p>5.4 mg/L 群：上層遊泳（24hr 4/10、48hr 10/10、72hr 10/10、96hr 10/10） 皮下出血（96hr 2/10）</p> <p>6.4 mg/L 群：上層遊泳（24hr 6/10、48hr 8/10、72hr 4/10、96hr 8/9） 皮下出血（72hr 1/10、96hr 6/9） 着底（48hr 2/10、96hr 1/9）</p>
生態影響 判定根拠	魚類急性毒性試験において 96hLC50=7.8mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。
備考	対水溶解度： 1700mg/L（20℃）SRC PhysProp Database

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-903 3-930	CAS No.	120-83-2
判定結果	人健康影響 - 生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：2, 4-ジクロロフェノール (別名：2, 4-ジクロロフェノール) <div style="text-align: center;">  </div>		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
藻類生長 阻害試験	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法： OECD-TG201(1984) 培養方式： 振とう培養 (密閉系) 純度： 100% 試験濃度： 設定濃度 0.20、0.41、0.84、1.7、3.6、7.3、15mg/L 実測濃度 0.058、0.082、0.23、0.67、1.5、3.4、8.8mg/L (幾何平均値) 助剤： なし 48hErC50 (実測値に基づく) = 4.8mg/L 48hNOECr (実測値に基づく) = 0.67mg/L ①試験実施者は、被験物質濃度減少の主な原因は照明 4000lux 条件下での変化析出と藻体への移行と考察している。		
ミジンコ 急性遊泳 阻害試験	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG202 試験方式： 半止水式、24 時間後に換水 純度： 100% 試験濃度： 設定濃度 0.80、1.2、1.8、2.7、4.0mg/L 実測濃度 0.65、0.99、1.5、2.2、3.4mg/L (幾何平均値) 助剤： なし 48hEC50 (実測値に基づく) = 2.2mg/L		
ミジンコ 繁殖試験	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG211 試験方式： 半止水式、毎日換水 純度： 100% 試験濃度： 設定濃度 0.020、0.063、0.20、0.63、2.0mg/L 実測濃度 0.017、0.052、0.16、0.50、1.6mg/L (時間加重平均値) 助剤： なし 21dNOEC (実測値に基づく) = 0.052mg/L ①0.052mg/L 区の親の死亡率が対照区より有意に高く、NOEC(親世代死亡率)は 0.017mg/L であった。		

魚類急性 毒性試験	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG203 試験方式：半止水式、24時間毎に換水 純度：100% 試験濃度：設定濃度 1.0、1.8、3.2、5.6、10mg/L 実測濃度 0.81、1.5、2.7、4.7、8.7mg/L（幾何平均値） 助剤：なし 96hLC50（実測値に基づく）=3.4mg/L</p> <p>また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 0.81 mg/L 群：異常遊泳（動作の緩慢）（48hr 1/10） 1.5 mg/L 群：異常遊泳（動作の緩慢）（48hr 4/10、72hr 1/10） 2.7 mg/L 群：異常遊泳（動作の緩慢）（24hr 2/10、48hr 3/10、72hr 2/10、96hr 3/9） 異常遊泳（方向不定遊泳）（48hr 1/10） 表層遊泳（24hr 2/10、48hr 3/10、72hr 2/10） 遊泳不能（72hr 1/10）</p>				
他の毒性 情報	<p>[SIAR（OECD/HPV プログラム）より引用] 藻類に対する毒性として ・ <i>Lemna</i> 7dEC50= 1.5 mg/L、NOEC=0.41 mg/L ミジンコに対する毒性として ・ <i>Daphnia magna</i> LC50=1.4 mg/l ・ <i>Daphnia magna</i> NOEC=0.21 mg/l 魚類に対する毒性として ・ freshwater fish (<i>Salmo trutta</i>) 24hLC50=1.7 mg/L ・ fish NOEC=0.29 mg/l</p>				
生態影響 判定根拠	<p>ミジンコ繁殖阻害試験において 21dNOEC=0.052mg/L 及び魚類急性毒性試験において 96hLC50=3.4mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。</p>				
環境調査 ※1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値
	水質	S53	0/24	—	0.2~40(μ g/L)
		H8	0/33	—	0.07(μ g/L)
	底質	S53	0/24	—	0.005~4(μ g/g-dry)
		H8	0/33	—	0.011(μ g/g-dry)
魚類	—	—	—	—	
大気	H8	0/18	—	10(ng/m^3)	
環境調査 ※2	水質	H10	34/405	0.01~0.2	0.01(μ g/L)
		H11	25/170	0.01~0.07	0.01(μ g/L)
		H12	7/171	0.01~0.04	0.01(μ g/L)
		H13	5/171	0.01~0.06	0.01(μ g/L)
		H14	11/91	0.01~0.88	0.01(μ g/L)
		H15	10/75	0.01~0.25	0.01(μ g/L)
		H16	10/75	0.01~0.03	0.01(μ g/L)

	底質	H10	4/152	88~230	5(μ g/kg)
		H11	0/48	—	5(μ g/kg)
		H12	0/48	—	5(μ g/kg)
		H13	0/48	—	5(μ g/kg)
		H14	0/24	—	1(μ g/kg)
		H15	6/24	1~2	1(μ g/kg)
		H16	1/24	2	1(μ g/kg)
	水生生物	H10	1/141	1.6	1.5(μ g/kg)
備考	※1 S54、H9版「化学物質と環境」(環境省環境保健部環境安全課) ※2 内分泌攪乱化学物質における環境実態調査(環境省環境保健部環境安全課) 対水溶解度: 2400mg/L				

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	1-110	CAS No.	7550-35-8
判定結果	人健康影響 第二種監視化学物質相当（平成 16 年 8 月 11 日告示済み） 生態影響 収集された情報からは第三種監視化学物質相当に該当するとは判断されな い		
名称 構造式等	名 称：臭化リチウム <div style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">LiBr</div>		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames【審 議済み】	陰性 純度 55.6%. 溶媒（蒸留水－溶解）. TA100, TA1535, TA98, TA1537, WP2 uvrA. 純度換算有り* （本試験 I, II） -S9mix 群：5000 μg/plate* +S9mix 群：5000 μg/plate*		
染色体 異常【審 議済み】	陰性 純度 55.6%. 溶媒（生理食塩液－溶解）. CHL/IU. 純度換算有り* 0.87mg/mL(10mM)まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に以下の濃度まで実 施. -S9mix 群：0.87mg/mL* +S9mix 群：0.87mg/mL* 24 時間処理群：0.87mg/mL*		
反復経口投 与毒性・生 殖発生毒性 併合試験 (ReproTox) 【審議済 み】	投与方法	強制経口投与 溶媒：注射用水	
	純度	55.6%	
	用量	3 投与群（5, 20, 80 mg/kg）純度換算有り*	
	死亡	予備試験 2/5[瀕死状態]：300	
	NOEL	5 mg/kg/day	
推定根拠	一般毒性： 血液生化学的検査（Crn ↑：20 以上♂、Alb ↓：20 以上♀） 尿検査（尿比重 ↓：20 以上♂） 相対重量（腎 ↓：20 以上♂） 生殖発生毒性： 同居から交配までの日数増加：20♀		

	他の毒性	<p>一般毒性：</p> <p>一般状態（常同行動：80♂♀）</p> <p>尿検査（尿量↑・Kの1日排泄量↑：80♂）</p> <p>血液生化学的検査（Cl↓：80♂♀、TG↑・Na↓：80♂）</p> <p>相対重量（下垂体↓：80♂）</p> <p>組織学的所見（腎－好塩基性尿細管・好酸性小体増加：80♂）</p> <p>生殖発生毒性：</p> <p>－</p>
	回復性	問題なし
人毒性 判定根拠	Ames 試験及び染色体異常試験は陰性であるが、NOEL5 mg/kg/day であることから、第二種監視化学物質相当	
藻類生長 阻害試験	<p>生物種：<i>Pseudokirchneriella subcapitata</i></p> <p>試験法：OECD TG 201 (1984)</p> <p>培養方式：振とう培養</p> <p>純度：99%</p> <p>試験濃度：設定濃度 2.2、4.6、10、22、46、100、220、460、1,000 mg/L 実測濃度 2.2、4.4、9.4、26、45、96、210、450、930 mg/L (時間加重平均、リチウム濃度に基づく換算値)</p> <p>助剤：なし</p> <p>48hErC50（設定値に基づく）= 290 mg/L</p> <p>48hNOECr（設定値に基づく）= 10 mg/L</p> <p>①48-72hにおいて、生長速度の低下が認められ、日間変動係数が35%を超えることから、毒性値は0-48hの期間で算出した。なお、0-48hの期間において対照区の藻類は約39倍に増殖した。</p>	
ミジンコ 急性遊泳 阻害試験	<p>生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i></p> <p>試験法：OECD TG 202 (1984)</p> <p>試験方式：止水式</p> <p>純度：99%</p> <p>試験濃度：設定濃度 42、56、75、100、130、180、240、320 mg/L 実測濃度 42、57、77、100、130、170、250、330 mg/L (時間加重平均、リチウム濃度に基づく換算値)</p> <p>助剤：なし</p> <p>48hEC50（設定値に基づく）= 110mg/L</p>	
ミジンコ 繁殖試験	<p>生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i></p> <p>試験法：OECD TG 211</p> <p>試験方式：半止水式、48時間毎に換水</p> <p>純度：99%</p> <p>試験濃度：設定濃度 1.8、3.2、5.6、10、18、32、56 mg/L 実測濃度 1.8、3.1、5.5、9.6、17、31、53 mg/L (時間加重平均、リチウム濃度に基づく換算値)</p> <p>助剤：なし</p> <p>21dNOEC（設定値に基づく）= 10mg/L</p>	

魚類急性 毒性試験	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD TG203 試験方式：半止水式、24 時間毎に換水 純度：98.9% 物質濃度：設定濃度 100 mg/L（限度試験） 実測濃度 96mg/L（時間加重平均） 助剤：なし 96hLC50（設定値に基づく）>100mg/L（試験上限濃度で影響が認められなかった。）</p>
生態影響 判定根拠	<p>藻類生長阻害試験において48hErC50=290mg/L、48hNOECr=10 mg/Lであり、ミジンコ急性遊泳阻害試験において48hEC50=110mg/Lであり、魚類急性毒性試験において試験上限濃度で影響が認められず、ミジンコ繁殖阻害試験において21dNOEC=10mg/Lであることから第三種監視化学物質相当でない。</p>
備考	<p>①臭化リチウムの分子量：86.85 ②臭化リチウムの水への溶解度：58.5%（0℃）</p>